

2021年度(令和3年度)
法学部・法律専攻

基礎演習

第Ⅱ期募集要項

応募期間	:	9月8日(水)12時00分～9月13日(月)12時50分
応募方法	:	K-SMAPY II (アンケート機能)
選考結果発表	:	9月16日(木)20時(予定)
発表方法	:	K-SMAPY II

【注意事項】

- ◆ 各クラス20名を上限とします。20名以上の応募があった場合、各教員が指定する方法(志望理由や課題の記述など)に基づく選考が行われます。また、応募者が20名未満の場合でも、志望理由や記述の内容によっては不合格となる場合もあります。
- ◆ 演習の内容や選考方法は担当教員によって異なるので、この募集要項をよく読んで確認したうえで、応募するようにしてください。
- ◆ 第1期募集で定員に満たなかったクラスを募集します。
- ◆ 「基礎演習」では、毎回の出席が原則です。履修中、やむを得ず欠席しなければならない場合には、必ず事前に担当教員に申し出て、その指示に従うようにしてください。

担当教員名	小原 薫			
担当教員の専門分野	政治学	開講曜時	金3限	
演習の概要				
こんな人に来て欲しい こんな人にお勧め	人前で自分の意見を言って、討論する力を養いたい学生にお勧めです。			
授業のテーマ	「読む力」・「話す力」・「聞く力」のレベルアップ			
授業の目的・内容	この授業では、大学での学習に必要な基礎的な読解力と報告・討論の基礎力養成に焦点を当てます。政治や現代の社会に関する教材を使いながら、要点を的確につかむ本の読み方、自分の主張の論理的な構成方法、他人に自分の主張を正確に伝える発表や報告の仕方、議論の問題点を明確にする質問や議論の方法などについて練習をしてもらいます。			
教科書・参考書				
授業の進め方				
身につくスキル	資料の収集		文章の読解	○
	プレゼンテーション	○	文章の作成	
	協同作業		ディスカッション	○
評価方法	平常点（課題の提出状況と授業時での貢献度を加味します）			
教員との連絡方法	メール ohara@kokugakuin.ac.jp			
選考方法	志望理由に基づき選考を行うので、エントリー時にK-SmapyIIの自由記述欄に、この基礎演習の履修を志望する理由を書いてください（300字から500字程度）。			

授業回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	朝日新聞Globe「支持されそうな人に一票を入れます」
第3回	朝日新聞デジタル「女子のアホのふり」気づかぬ東大男子」、平成31年東京大学学部入学式祝辞
第4回	藤原帰一「民主政治 首の皮一枚」『朝日新聞』、「ミャンマー 外交と人権、「一丁目一番地」は問う」『朝日新聞』
第5回	谷口将紀・宍戸常寿『デジタル・デモクラシーがやってくる!』(中央公論新社)
第6回	谷口将紀「若年層の『保守化』をめぐって」『UP』、豊永郁子「貧困は社会的不正義だと思いますか?」『朝日新聞』
第7回	マイケル・サンデル「レクチャー1 犠牲になる命を選べるか」『ハーバード白熱教室講義録+東大特別講義』上(早川書房)
第8回	丸山真男「「現実」主義の陥穽」『丸山真男集<第5巻>』(岩波書店)
第9回	石橋湛山「大日本主義の幻想」(岩波文庫)
第10回	永吉希久子『移民と日本社会』第2章(中央公論新社)
第11回	ディベート1
第12回	ディベート2
第13回	ディベート3
第14回	ディベート4
第15回	総括討論

担当教員名	藤嶋 亮			
担当教員の専門分野	比較政治	開講曜時	木曜2限	
演習の概要				
こんな人に来て欲しい こんな人にお勧め	「書くことが何となく苦手だ」「国際情勢に関心がある」等々の場合、積極的に参加して下さい。			
授業のテーマ	アカデミック・スキルズ入門－レポートの書き方を中心に－			
授業の目的・内容	<p>これから大学生活を送る上で、講義・演習の課題としてレポートが出たが、どうやって書けばよいか分からない、あるいは、だいたい論文のテーマは決まったが、書き始められない、等々の「レポート・論文の壁」に直面する可能性が（相当に）あります。これに対する特効薬はありませんが、レポートのルールと多少の「こつ」をつかめば、それなりのものが書けるようになります。内容はもちろん重要ですが、この演習では、まず書き方を具体的・実践的に学ぶことで、「書けない」という問題の克服を目指します。また、レポート・論文を書く際に必要とされる、批判的な分析能力や、論理的に議論を組み立てる（そして説得する）能力は、社会人になってからも確実に役に立つはずです。</p> <p>なお、授業では、国際政治を中心とした時事的問題（例えば世界で続く民主主義の危機や民族紛争など）を中心に、広く社会科学に関連した資料・文献を教材として用います。</p>			
教科書・参考書	特定の教科書・参考書は用いず、教材を適宜配布します。			
授業の進め方	<p>授業の前半では、レポート作成の前提であり、演習形式の授業では不可欠となる、文章の要約、レジユメの作成に重点的に取り組みます。後半では、問題設定、資料収集、途中経過の報告（・質疑応答）、教員による添削等を通じ、レポートの書き方を実践的に身につけていきます。</p>			
身につくスキル	資料の収集	○	文章の読解	○
	プレゼンテーション	○	文章の作成	◎
	協同作業	○	ディスカッション	○
評価方法	平常点（毎回の出席、議論への積極的参加、提出物・レポートの内容）			
教員との連絡方法	メール（rfujishima@kokugakuin.ac.jp）にてアポイントメントをとるようにしてください。			
選考方法	志望理由に基づき選考を行うので、エントリー時にK-SmappyIIの自由記述欄に、この基礎演習の履修を志望する理由を書いてください（300字から500字程度）。			

授業回	内容
第1回	オリエンテーション 【内容・目標】授業内容・評価方法などについて説明、担当教員と受講者の自己紹介。
第2回	文章を要約する（1） 【内容・目標】新聞の記事・論説程度の短い文章を読み、要約を作成。
第3回	文章を要約する（2） 【内容・目標】新聞の記事・論説程度の短い文章を読み、要約を作成。内容に関するグループ・ディスカッション。
第4回	文章を要約する（3） 【内容・目標】課題文献の1章分程度の文章を読み、要約を作成。内容に関するグループ・ディスカッション。
第5回	レジュメを作成する（1） 【内容・目標】課題文献の1章分程度の文章を読み、レジュメを作成。内容に関するグループ・ディスカッション。
第6回	レジュメを作成する（2） 【内容・目標】課題文献の1章分程度の文章を読み、レジュメを作成。内容に関するグループ・ディスカッション。
第7回	レジュメを作成する（3） 【内容・目標】課題文献の1章分程度の文章を読み、レジュメを作成。内容に関するグループ・ディスカッション。
第8回	文献・資料検索ガイダンス 【内容・目標】図書館資料、新聞・雑誌記事の検索の方法。
第9回	レポート・論文とは何か？ 【内容・目標】レポート・論文の要素・要件。
第10回	レポートの作成（1） 【内容・目標】レポートのテーマ・問題設定の方法。各自のレポートについての中間報告、質疑応答。
第11回	レポートの作成（2） 【内容・目標】文章作成の基本ルール、引用の方法、注・出典の示し方。各自のレポートについての中間報告、質疑応答。
第12回	レポートの作成（3） 【内容・目標】段落の構成、説得力のある議論の作り方。各自のレポートについての中間報告、質疑応答。
第13回	レポートの作成（4） 【内容・目標】推敲の仕方。各自のレポートについての中間報告、質疑応答。
第14回	レポートの作成（5） 【内容・目標】添削について。各自のレポートについての中間報告、質疑応答。
第15回	まとめ

担当教員名	本久 洋一			
担当教員の専門分野	社会法（労働法・社会保障法）	開講曜時	月曜3限	
演習の概要				
こんな人に来て欲しい こんな人にお勧め	法律の読み方、判例の読み方を基礎から学びたい。パワハラ、労災、解雇等について学びたい。			
授業のテーマ	労働判例を素材に法律学の基礎を学ぶ			
授業の目的・内容	この演習では、法律学の初学者を念頭に、労働法分野の裁判例を素材として、法律の読み方、判例の読み方の基礎を学んでいきます。なお、この演習では、受講生による発表と討論が授業の中心となりますので、それなりの負担（レジュメの作成と報告の準備、ゼミにおける積極的発言等）が各受講生に求められることを十分にご留意ください。			
教科書・参考書	本久洋一・小宮文人・浅野高宏『労働法の基本 第2版』（法律文化社、2021年）			
授業の進め方	最初は、双方向的に、法律学の基礎を講義しますが、中盤以降は、受講生による発表と、受講生による検討が中心となります。			
身につくスキル	資料の収集	○	文章の読	○
	プレゼンテーション	◎	文章の作	◎
	協同作業	◎	ディスカッション	◎
評価方法	平常点によります。毎回の授業におけるレジュメ、報告、発言等を審査します。			
教員との連絡方法	k-smapy上の授業QAをご利用ください。			
選考方法	事前にご提出いただいた志望理由書により、選考します。エントリー時に、K-SmappyIIではなく、教員のメールアドレス宛（motohisa@kokugakuin.ac.jp）に、志望理由書（WordファイルA4・1～2枚程度）を送付してください。			

授業回	内容
第1回	法律の読み方：要件効果とその実習
第2回	法律の読み方：法的三段論法とその実習
第3回	判例の読み方：具体的な判決文を素材に、土地管轄、事物管轄、事件番号、事件名、口頭弁論終結日、表題
第4回	判例の読み方：具体的な判決文を素材に、請求の趣旨、請求の原因、主張立証責任
第5回	判例の読み方：具体的な判決文を素材に、主文、事実、理由
第6回	ケーススタディ（1）：パワハラに対する損害賠償請求事件、不法行為法の基礎を学ぶ
第7回	ケーススタディ（1）：発表と討論
第8回	ケーススタディ（1）：発表と討論
第9回	ケーススタディ（2）：職務能力を理由とする解雇に対する地位確認請求事件、契約法の基礎を学ぶ
第10回	ケーススタディ（2）：発表と討論
第11回	ケーススタディ（2）：発表と討論
第12回	ケーススタディ（3）：労災事件に関する取消訴訟を通して、行政訴訟の基礎を学ぶ
第13回	ケーススタディ（3）：発表と討論
第14回	ケーススタディ（3）：発表と討論
第15回	ゼミの総括と今後の学習指示